



【探究部・ポートフォリオ】学びの成果から飛躍する生徒たちの姿に期待してます（黒田先生）

探究活動、進路活動などにおいて、振り返りや学びの成果などの履歴をクラウド上に残す活動（ポートフォリオ）を進めています。昨年度から行っていますが、今年度、1年生から本格的に開始します。ポートフォリオの担当である探究部 黒田先生（地歴公民）にインタビューしました。



Q1：ポートフォリオはどのようなものですか。

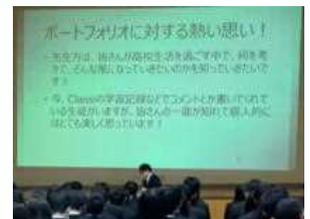
A1：1年間、一人一人の生徒が学習、行事、進路、部活動などの活動の記録を各時期にまとめ、積み重ねていくもの。1年後、自分自身の成長の様子が分かるものです。

Q2：工夫している点はどのような所ですか。

A2：継続したものとなるようSHRなどで記載してもらったり、全ての先生方から生徒達にコメントを返せるようにしています。既に、記載している生徒に対して、コメントしてくれている先生いて、うれしく、ありがたいです。

Q3：今後、どのよう活用を期待していますか。

A3：学習など学校生活での不安や悩みなどの記載でもいいです。ポートフォリオは一人一人の生徒のためのものであり、3年後の変容を今から夢見ています。



【黒田先生との対話を終えて】

年度当初の職員会議、さらに、今回のインタビューでも熱い思いで、ポートフォリオの活用の大切さを話してくれました。この日は、併せて、1年生を対象とした「なぜ、ポートフォリオが必要か」の説明も行ってくれています。写真にもあるように、生徒達はタブレットやスマートフォンでの入力の仕方を学んでいます。

【事務情報科・3年次】高専連携（北海道情報専門学校との連携）

4月26日(金)、本校と北海道情報専門学校が「高専連携」を締結しました。この高専連携はe-ラーニング教材使用に関するもので、覚書を両校の校長が交わしました。



このe-ラーニングは、事務情報科3年次の学校設定科目「経営戦略概論」において、ITパスポートと基本情報処理に係る国家資格を取得のために活用されます。令和

6年4月から1年間、本校の生徒がこの国家試験のために、専門学校のe-ラーニングを利用することができます。家庭などでもいつでも扱えるものです。また、大学共通テストの教科・科目で課される「情報」について、利用することができます。

【商業科・3年次】アントレプレナーシップ[※]教育が始まりました

今年度、商業科の教育活動は、外部人材、根室にある関係団体と連携・協働した活動を積極的に行っています。4月25日(木)、日本政策金融公庫 国民生活事業本部 北海道創業支援センター所長 小塚友平 氏を講師に招聘し、課題研究でのビジネス・プランの授業を行いました。ビジネスアイデアの発想、高校生ビジネスプラン・グランプリについて、説明を受けました。過去には、このコンテストにより起業した方もいます。9月まで月1回程度の授業を行ってもらい、ビジネスプラン・グランプリへ応募するを予定です。



※アントレプレナーシップとは：様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神

【部活動・柔道部】祝：優勝 第57回 釧根地区 春季柔道大会 男子団体

4月21日(日)、釧根地区春季柔道大会男子団体で優勝しました。(近年の優勝はなし) 釧根管内出場校は釧路市内3校と根室の4校での予選リーグ後、釧路明輝との決勝でした。



相手は体格もよく、対戦前は不安もありましたが、少ないチャンスを一本で決めるなどの活躍もありました。柔道部員は男子4名、女子1名と少人数ですが、日々の練習を積み重ね、高体連では一戦必勝で頑張るとの決意を述べてくれました。

【部活動・野球部】「野球ノート」の実践

新年度の活動が開始、4月から野球部員一人一人が部顧問と「野球ノート」のやり取りが始まりました。野球ノートを開いてみると、「**球心一到、一球に心を込めれば、何事も達成できないことはない**」とのメッセージがあり、日々の活動から課題、その日の目標、振り返りなど記載する項目があります。



ある部員のノートを見させてもらいましたが、ノートの2ページにわたり、活動の反省をもとに次にすべきことについてびっしりと記載されていました。部員の記述した内容に対して、顧問からは赤ペンでコメントがなされていました。生徒が活動の振り返りを文字に落として、見える化することで、考え方が当初の記載よりも確実に深まっていることがわかります。また、ノートを部員同士で見せ合い、他の部員・顧問の考え方を新たに知り、部員同士の情報交換・交流がなされているとのこと。このノートは、普段の活動では見えない(現れにくい)部員個々の考えや行動しようと努力している様子を知る事ができるものでもあります。また、顧問曰く、生徒達が、プレーするだけに終始することなく、頭を使うことが野球であるとの意識が付きつつあるとのこと。最近、3年生の部員からは、勝ち負けだけではなく、勝つための練習やその時々への対処などの過程(プロセス)、チームとしてどうあるべきか、考えるのが楽しいと言うようになったとのこと。生徒の成長や成果を生徒はもとより顧問が感じています。

【聞き取りを終えて】

今回の活動では、生徒自身が活動を振り返り、その成果や自身の変容を実感できるような場面を設定してくれています。今回の野球部の事例以外にも、本校の先生方は、あらゆる教育活動の場面において、生徒の変容について意識して取り組んでくれています(^o^)